毎月1回25日 発行　　第3種郵便物認可(昭和35年7月26日)　①

山と博物館

第 7 巻 第 4 号　　1962年4月25日

冬のライチョウ

撮影　高橋秀男

大町山岳博物館

食用野草のこと

高橋秀男

4月も18日だというのに北ア山麓は雪が降った。公園の桜もだいぶほころび始めたが，思わぬ寒さにびっくりしたようである。

春の野辺に籠をかゝえた子供たちのつみ草風景がチラホラ見られる今日この頃である。草木の芽ぶきが一斉に始まると，いよいよ山菜狩りのシーズンが訪れる。

山菜は古くから我々の食膳を賑わし，そして生活には欠くことのできないものゝ一つであった。近頃，豊富な野菜類が四季おりおりに出廻っており，食生活の水準も高まってきている。この傾向が高まれば高まるほどに「野に帰る」ではないが，野趣を愛する人たちが増してくる。短期間に僅少の量しか採れない山菜は珍重な食糧としてますます賞味する価値が出てくるだろう。それは過去の副食ではなく，こんどは献立に特有の風味を添え山菜のもつ淡白な味をあじわうのである。

またハイキング，キャンプ，登山などに山菜の知識があると案外役立つものであり，変化の乏しい献立に思わぬ風彩を添えることができる。

こゝでは一般的で広く知られる食用野草をまとめてみた。

スギナ　(トクサ科)

春の到来を告げる植物としてあまりに有名である。地上茎に先だって胞子をつける茎を出す。これがつくしで食用になる。まだ胞子の出ないような若いものがよい。はかまを取り除き，あく出しをして煮物，和え物，浸し物にする。

ゼンマイ　(ゼンマイ科)

湿った所を好み，大群落をなすことがあり，安曇平では5月下旬～6月初旬がシーズンである。5年ほど前のことである。6月下旬，八方尾根黒菱小屋前に遅くまで雪渓が残こるところがあり，そこにゼンマイの大群落を発見した。早速これを大量に採集してきて，小屋へ持ち帰り，あくぬきに時間がかゝるので，灰ごと入れてゆで汁の実に用いたが苦くて食べられなかった経験がある。

まだ褐色味をおびた綿毛のおゝわれている若い芽を取ってくる。あくが強いのでゆでてから乾燥して貯えるかあくをぬいてから食用に供する。塩漬もよいそうである浸し物，煮物，和え物，いため物などによいが，私はわらびより味が落ちるような気がする。多量の蛋白質，炭水化物を含んでいるとのことである。

ワラビ　(ウラボシ科)

シーズン中は日曜毎に「わらび狩り列車」が出る程，北ア山麓のわらび狩りは盛んである。無数に点在するスキー場はみなわらび狩りのフイルドである。焼拡った山野には大群落があり，鎌でかるようである。ゆでた後，灰汁に入れてあくをぬくが，あく出しを充分にしないと有毒である。浸し物，煮物，和え物など，ゆでて天日で乾燥して貯えるが塩漬にしておいてもよい。

クサソテツ　(ウラボシ科)

安曇平ではこゞ身，こゞ芽，こうみ（香味）の呼び名があり，歯ぎれのよい淡白な味と香り，鮮明な緑色が珍重されている。沢筋など湿めったところに多く，5月中旬頃の柔かい芽を摘み，浸し物，汁の実などにすると美味である。塩漬にしておくといつまでも緑色が保存されている。日本シダの会々報No 12の伊藤洋先生の「食べられるシダ」によると，北米ではFiddle headと呼んで食用にするシダは殆んど本種を指し，食用シダの代表的なものとなっている。このFiddle headという言葉は「バイオリンの頭」ということで，バイオリンの棹の先についている渦巻模様がシダの巻いたのによく似ているからであるという。また北米の一部では栽培して市場に出荷しているところもあり，一流料理店の献立表にのっているという。

ミヤマメシダ　(ウラボシ科)

高山性のシダ植物で一般に広く知られていない。高山の草原に往々群落をなし，黒い鱗片をつけているのですぐ見分けつく，若い芽をとり，黒い鱗片（取らなくてもよいが口あたりが悪い）を落し，浸し物，和え物，汁の実などに好適，ちよっとクサソテツに似た味であるが，一段落ちる。

イラクサ　(イラクサ科)

山地の樹陰など日陰に生ずるもので，葉，茎ともに刺毛がある。若いうちにとり，ゆでて和え物，浸し物，汁の実になかなか美味である。塩漬にして保存してもよいたゞ採集するときに手袋を使用しないと刺毛があるので注意を要する。

ウワバミソウ（ミズナ）　(イラクサ科)

渓谷沿いや湿地に群生しており，柔らかい植物なので8月中旬頃まで食べられる。あくがなく，浸し物，煮物汁の実，和え物，漬物などになる。

アカザ　(アカザ科)

畑の雑草で帰化植物，若葉，若芽を摘んでゆでてから浸し物，和え物，油いためにすると美味である。資源植物事典によると，栄養価も高くビタミンA，B2 Cを多量に含み食用野菜の第一とされている。

スベリヒユ　(スベリヒユ科)

畑の雑草として普通である。和名の示すごとく食べると粘気があり滑らかである。若い茎，葉を和え物，浸し物，汁の実等にする。

ニリンソウ　(キンポウゲ科)

山足，渓谷などに群落をなしている。若い芽，葉を煮物，和え物，浸し物にするが，淡白な味が喜ばれている

ナズナ　(アブラナ科)

畑，路傍に普通に見られる雑草である。早春の食用野草で，和え物，浸し物，油いためなどに一種の香があって美味である。

ユリワサビ　(アブラナ科)

山地の渓谷などに見られる。根はおろし金ですり，茎葉はゆでて醤油をかけて食べるとカラシナに似て辛味があって美味である。

フジ　(マメ科)

若い芽，花を浸し物にする。

ウド　(ウコギ科)

成長して葉が開き，茎が硬くならないうちに取り，酢の物，和え物，煮物，サラダなどに用いる。香気に何ともいえぬ野趣がある。栽培されている。

タラノキ　(ウコギ科)

山野に多い小喬木で鋭いトゲがある。春早く茎の頂についた芽を採り，汁の実，浸し物，揚げ物等にして食べるが，油いためが一番美味である。

セリ　(セリ科)

田圃や水辺に多く，早春の摘み草の代表種である。若い苗を摘んで和え物，吸い物，浸し物など，独特の香りが賞美される。水辺のものは草丈が長く，水田などに栽培している。

ヨブスマソウ　(キク科)

ウトブキの呼び名があり，沢筋に群落をなしている。最近では市場にも出まわるほどに一般的な食用野草として知られる。出初めの茎を浸し物にする。香りがよくまた歯ざわりもよい。

ツリガネニンジン　(キキヨウ科)

葉は輪状につき，茎を折れば白い汁が出る。トトキとも呼び，若い苗をゆでて浸し物，和え物にするが，香気が人によっては嫌われる。

フキ　(キク科)

チャンメロ，フキッタマ，フキボボなどの愛称で親しまれるフキの花は早春の珍味である。ほろ苦い中にも香りがよい。普通味噌あえにして食べる。茎は皮をむき，あくを出してからキヤラブキ，和え物，煮物などにする

ヨモギ　(キク科)

モチグサとも呼ばれ草餅をつくる。あく出しをして浸し物，汁の実などにもするが，香の嫌いな人がいる。

アザミ　(キク科)

若い芽や柔らかい葉がよい。塩漬にしておいて野菜のない時期に浸し物にする。

天ぷら，ごまあえ，砂糖味噌あえ，汁の実などに美味である。アザミの類は殆んど食用になる。

キツネアザミ　(キク科)

葉をゆでて乾燥して保存し，浸し物，和え物にする。また草餅にも使用する。

タンポポ　(キク科)

普通に知られた植物で，クジナ，ダンボの方言がある若い葉をあくぬきして，浸し物，和え物，汁の実などにするが，セリ，ナズナ，タンポポ，ノカンゾウなどと一緒に浸し物にするとなお美味である。タンポポはほろ苦い風味が買われる。

オオバギボウシ，コバギボウシ　(ユリ科)

安曇平ではホウレンバと呼び，若い葉を浸し物，汁の実，和え物にする。

ノカンゾウ　(ユリ科)

笛になるのでピーピー草などとも呼ばれる。日当りのよい土手に群落をなしている。早春芽を摘み，浸し物にするが甘味が強い。

ノビル　(ユリ科)

春先，茎と根を浸し物にしたり，きざんで味噌もみにしたりする。ねぎのような味がする。

ギョウジャニンニク　(ユリ科)

和名から推していかにも古い感じがする。深山に生じており，その昔行者が修業の際食用にしたところからこの名が出たものといわれる。戸隠奥社の参道周辺の林下に多い。浸し物にするが，玉ネギに似た甘い味がある。

オオバユキザサ　(ユリ科)

亜高山帯から高山帯にかけて群生しており，春山，といっても6～月7初旬ではあるが，若い芽を食用にする浸し物，汁の実によいが，甘味に好き嫌いがある。

(山博学芸員)

資料寄贈　キジ♂1体大町市大黒町北沢仲伍　トモエガモ♂1体大町市六日町白馬園　イシガメ1体大町市日ノ出町仲よし　カケス1体大町市五日町越山利章　カルカモ1体大町市第三社宅　オシドリ1体北安松川村神戸棒葉泰章　イシガメ1体北安白馬村森上飯島春繁　ヨシゴイ1体大町市常盤西山浅野繁喜　バン♀1体北安池田町北原智秋　アカエリヒレアシシギ1体北安池田町窪田義信　スズメ(白化種)1体北安松川村細野井上袈裟治　オシドリ♂1体北安池田町正科密沢主馬男　トオホクノウサギ(白化種)1体大町猟友会　シメ1体大町市東町中村たかえ　エゾムシクイ1体信州大学教育学部　シロハラミズナギドリ1体長野市柳町中学校藤丸一異　イシガメ1体大町市俵町細川紀道(**敬称略**)

ゴールデンウイークの登山者に

大町警察署山岳係

近年登山人口は急げきに増加し，ゴールデンウイークにはたくさんの人達が北アルプスに登山されるものと思います。

私達北アルプスの地元警察署としてゴールデンウイークというとすぐ頭に浮ぶのは，連休かまた遭難があるぞ，ということであります。それくらいゴールデンウイークというと，遭難事故があるのであります。

このことは，私達は，まことに残念なことであると思っているのであります。

最近登山人口の増加に比例して，遭難事故も非常にふえていることは，みなさんも既に御承知のとおりであります。

私達は，遭難があるたびに現地におもむき，遭難者の捜索，救助，遺体の収容活動などを，実際に行なってきたのであります。

そのたびに思いだされるのは，残された父母兄弟知人等の悲しみ，そのうえ費用の負担，実際に現地におもむき捜索救助活動にたずさわる人達の苦労等であります。

これらのことを考えると，ほんとに遭難事故はなくさなければいけないと思います。しかしこの遭難事故防止も一部関係機関のみがいくら声をだいにしてさけんでも効果があがるものではありません。要は登山される人，個人個人が十分注意して遭難事故防止につとめていただくことがいちばん大切なことと思います。ところが，これが案外守られていないために，起さないでもすむような事故を起したくさんの人達にいろいろ迷惑をかけているのが現状ではないかと思います。ゴールデンウイークに北アルプスに登山されるみなさんに地元警察署としてお願いはたくさんありますが，そのふたつ，みっつを申しあげるので参考にして事故防止に御協力くだされば幸と思います。

1，登山計画について

(1)経験や体力に応じた無理のないコースを選んでください。

(2)よゆうのある日程を組んでください。

(3)登山計画はあらかじめ警察へお送りください。

登山計画の日程でありますが，日程を組む場合普通山の状況に応じて最悪の場合のことを考えてよゆうのある日程を組むのでありますが，ゴールデンウークのときの日程を見ると，山のむずかしさのことなど考えず，また天候のことも考えず，休みにあわせた日程を組んであるので，どうしてもその休み中に日程を消化しようとするのでどうしても無理な行動となり事故が起きる原因になるのであります。

登山技術の異なる人が組んで登山するときには登山技術の一番未熟なものを基準にしたコース日程を組むようにしてください。

登山計画の提出は任意でありますが入山する前に，まず登山計画はよいか，地元警察署え登山計画を送ったか，ということをみんなで考えて見ることもあながちむだなことではないと思います。

2，山の地理や天候をたしかめて

(1)山での行動は夜明から午前中で打ちきるようにしてください。

(2)よく天候をたしかめてから登山してください。

山での行動は常に最悪の場合のことを考えて行動し午前中で終るようにしてください。山の天候は急変するので午前中は天気がよくても午後は急に悪くなる場合がよくあります。午前中天気がよく午後天気が悪くなったような場合でも午前中に行動が終るようにしておけば，それに応じた処置がとれるのですが，きようは天気がいいからといって午後から行動を開始するようなパーティーがありますがそのようなことは事故の原因になると思われます。

3，その他

(1)しつかりしたリーダーに従つて入山してください。

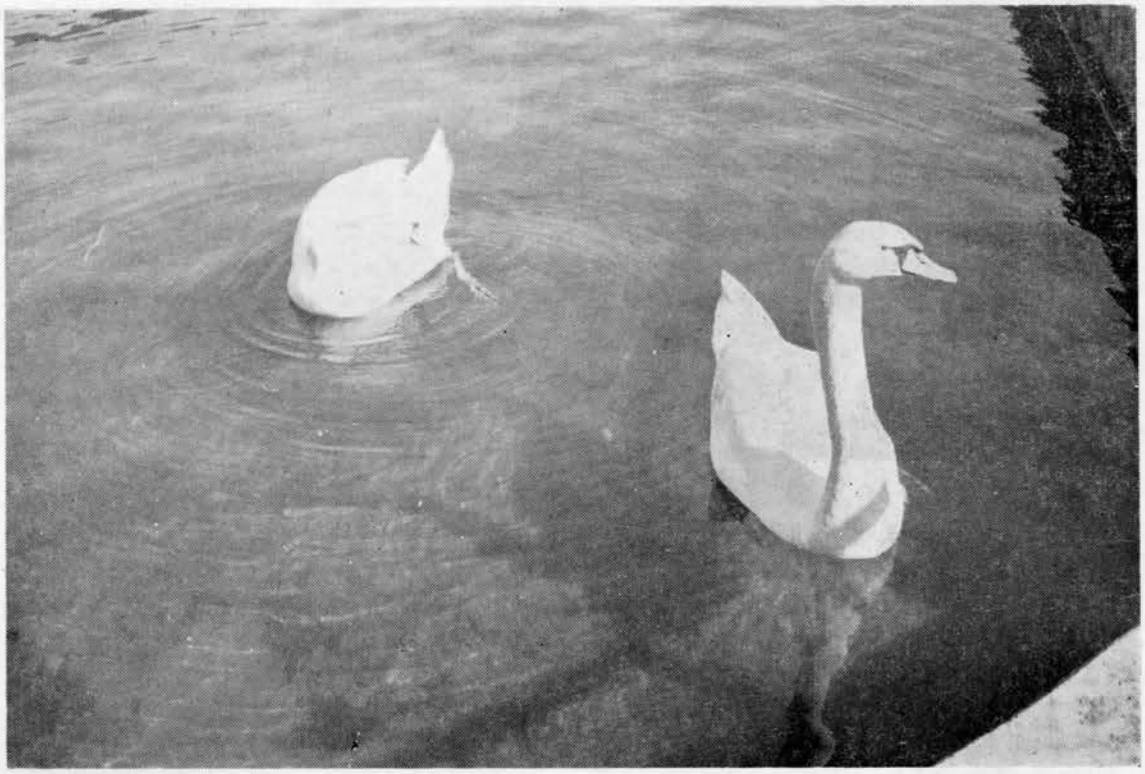
(2)地元の人に山の状況をよくきき，とくに雪に注意してください。

等でありますが特にお願いしたいのは，登山とは各人が家を出るときにはじまって，元気な姿で無事家え帰ったときに終ったのであるという考になっていただきたいのであります。そおいう考えになることによって途中における行動も慎重になり事故がすくなくなるのではないかと思います。

昨年あった例ですが「一人で山え行ったが予定の日になっても家え帰らないのでさがしてもらいたい」という願いが家人から出されたのであらゆる方面に手をつくしてさがしたのですがわからない，そのうちに「ぼっか」をやっているということがわかったので調べてみると確かに「ぼっか」をしていたのであります。

これなどは自分のことしか考えていないのではないかと思われます。このような場合家へ連絡しておけばそれでさわがずにすんだのにと……。

木崎湖へコブハクチョウ ……子供の作文から



平小学校6年　西沢みや子

今木崎湖の北の池にいるコブ白鳥は，3月27日に東京の皇居から送られて来たものです。その時，大勢の人たちがむかえに出ました，箱から出して池にはなすのは，松田市長さんがやりましたが，はねをばたばたさせて，やっとぐらいにして入れました。

白鳥は，長いこと箱の中に入って来たので，きゅうくつで動けなかったのか，池の中に入れた時は，大よろこびで羽をばたばたさせておよぎまわりました。すぐにえさをやりましたが，なかなかえさは食べませんでした。白鳥の大好きなえさは，キャベツだそうです。

この間行った時，金魚草をたくさんとって来て池の中に入れてやりました。そうしたらよろこんでそれを食べました。白鳥はこの池に一年位いて，それからは木崎湖で自由に遊ぶのだそうですが，りこうな鳥で，ねこや犬が来ると，羽をばたばたして追うそうです。

また子供達が石をなげたりすると，おぼえているのだそうです。こんな話しを，博物館の海川先生が話して下さいましたが，私達もだいじに，親切にこの白鳥を育ててやりたいと思っています。白鳥は魚は食べないそうですので，みんなでかわいがってやれば，これからたくさんふえて，冬に来る白鳥も安心して住むだろうし，木崎湖に点々と白い鳥が浮かぶのがたのしみです。

平小学校6年　郷津美佐子

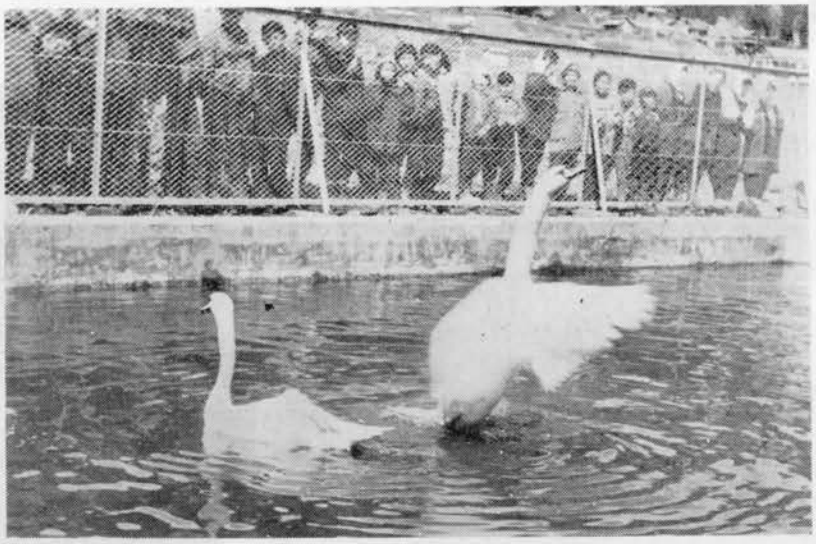
3月27日に，2羽のコブハクチョウが送られて来ました。

私たち海の口の部落の少年少女のクラブの者も，町の人達といっしょにむかえに出ました。このハクチョウは皇居からいただいたものだそうです，2羽の白鳥は，オスとメスだそうですが，今では，すっかりなついて，2羽とも元気でいます。

送られて来た時，新聞記者の写真をとる人が来て，箱から出す所や，えさを食べている所，水にもぐっている所など，いろいろなところの写真をたくさんとりました

私たちは家が近いので，時々学校を帰ってから，自転車で行ってみます。はじめに来た時は，なかなか寄って来ませんでしたが，今では大分なれてきたとみえて，池の土手まで首をのばしたり，近寄っても来ます。毎日のせわは，ササヤのおじさんがやってくれているそうですが，早くもっとなれたり，なついたりすればいいと思っています。

今では，来た時より，ずっときれいになりました。羽が切ってあるので，とんで行かないそうです。時々羽をひろげて，まい上るようにしますが，とてもきれいですおすとめすだから，これから，たくさん子どもを育てて木崎湖に，もっともっとたくさんのカモや白鳥が来るようになったらと思っています。



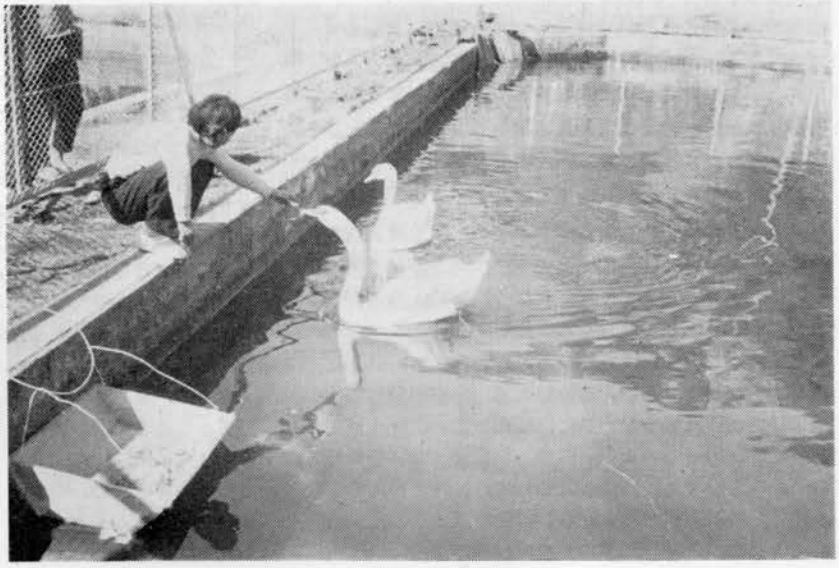
平小学校6年　小日向利和

ぼくが，しずお君をまっていると，5分ばかりたって田のあぜをとんで来て，「きょうは，なににのって行く」ときいた。ぼくは「れんらくは，電車で行くと書いてあった」としずお君にいうと，しずお君も「電車で行く」といったので，きざきの駅まで歩いて行こうとして，かごやのところまで行くとちょうど都合よく，バスがきたので，バスに乗ってえきまで行く。じきに電車がきたので一番前にのると，〃友の会〃のものはだれも乗っていなかったので次の客車に行ってみました。ぼくの友だちやほかの人たちが多ぜいのっていた。そのようなことをしながら湖水をみて行くと，まだ，カモがつめたそうな水の中に，ぽつり，ぽつりと見えた。そして，いなおの駅を通りすぎてまもなく，白鳥を入れるらしい所がみえた。どこの人だかわからないが多ぜいの人の姿がみえた。きれいな水のようなものもみえた。この色はもと土器をひろいに行って，発電所の水をみたがこの色とかわりなかった。そのうちに海ノ口駅についたそこから少し歩いて行ったら，SBCのジープがテレビカメラをつけて来て道を聞いた，ぼくはテレビにうつるかもしれないと思いすこしはずかしくなりましたついてからも，湖水へ石をなげたり，おしっこをしたりしていました，ちょっと気づくと，さっき電車の中で見えた水のようなものはあみでした。すこしあそんでいると，30分位たって白鳥が来ました。まずさいしょに市役所の人たちがきて，つぎにはオート三輪にのせられて白鳥が来た。ちょっとみるときたならしい羽をしていましたそれにちいさなはこの中に2羽も入れられていて，くるしそうに見えました。このようなことをされて，わざわざ東京から旅行して，長野県まで来るのはつらかったろうと思いました。

それから市役所の人たちや，かかりの人たちがかわいがってりっぱにそだてて下さいといういみの話しをしてくださった。それから白鳥について来た人がオスをはなし，そのつぎに市長さんがメスをはなした。すると北アルプスの山々がうつる白鳥の池にきもち良さそうにつばさを休めていた。それとなんどもはばたきして，ぼくたちにおれいをするようによろこばせてくれた。

家に帰って夜6時50分からの信毎ニュースを見るときょうのこともニュースにでました。また7時のNHKのニュースにも出ました。この時東京のおぼりで，あみをもち白鳥をつかまえているところがでました。このときも，とてもやだがっていたので，水にはなされたときはとてもうれしかっただろうなと，ぼくは思いました。

そうしてぼくは，夕飯の時に白鳥をはなした時のこと



や，もって来る時のことをかぞくのものに話してやりました。

平小学校6年　西沢真由美

3月27日午前10時頃だったか，東京の皇居のお堀から白鳥が送られて来ました。

オート三輪車に乗って，小さな箱に入れられて木崎湖まで，長い旅をして来ました。

西海の口の大川に着いた時，松田市長さんや，町の人や，博物館の人達が大勢で出むかえました。そのうちに市長さんと，東京から白鳥について来た人が，あいさつをして何か話しをしていました。

それから，白鳥の入った箱が車からおろされ，東京から来た人が，箱から白鳥を出して，コンクリート造りの池の中に放しました。せまい箱の中から，急に広い池に出された白鳥は，おどろいたのか，羽をパタパタと，まう時の様にした。白いと思っていた白鳥は，ほこりをかぶった様に黒かった。

海の口のササヤのおじさんが，キャベツをこまかくきざんだえさをくれたが，えさと反対の方に行って，えさを食べようとはしなかった。きっとまだ，池になれないせいだろうと私は思いました。

そのうちに白鳥は池の中を，ぐるっと一まわりして，ゆうゆうとおよぎまわりました。

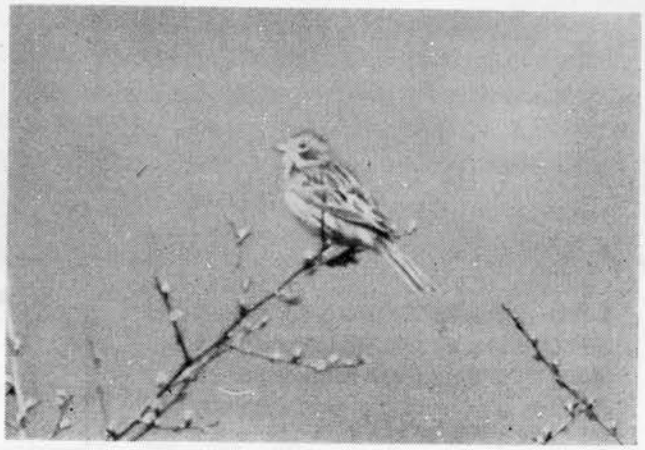
29日に私は妹と二人で，白鳥の池にまた行ってみました。羽は来た時より，ずっと白くなっていましたが，まだ首のあたりは来た時のように黒かった，池の中のすもすっかりなれてきたように見えました。白鳥の隣りの池には，大きな金魚がいました。もう少しむこうの方へ行ったら，カモが一羽いました。この前二羽いたのですが一羽は羽に注射をしてもらい，なおってとべる様になったので遠くへとんで行ったのだそうです。残った一羽も早くなおって，来年，この白鳥が木崎湖に出てあそぶ時また来るようにと思いながら，妹と二人で，土手のフキボボをつみながら家に帰りました。

コジュリン

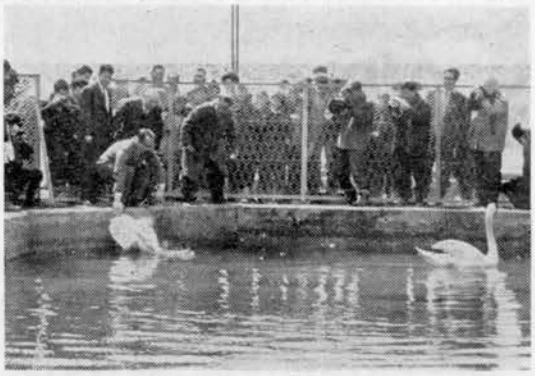
長沢修介

草原の真中に陣取って上るヒバリや地上のヒバリを観察していた時小潅木の上に一羽見なれぬ鳥の姿を見付けた。鳴きもせずホホジロに似ている様な気がするが少し小さいようだ。ちょっと飛ぶ所を見ると雀に似た感じだが雀とは違う。雀はこんな所へ一羽で出現するわけはないし何かな。あいにく双眼鏡を持っていなかったので500ミリの望遠レンズをつけたカメラで鳥の細部を見ようと思ったが，ファインダーの中に入る鳥の姿は細部迄確認することは出来ず，そのうえ重い望遠レンズを脚なしで持って来たので思うようにカメラを固定出来ずあせるばかり，そんな状態のうちに鳥は何処へ飛び去ってしまった。口惜しがっても自分の不用意が悔れるだけ。それでももしかしたらの期待をかけてそこでも少しねばって見ることにする。それから2時間，日も高く昇りうすく曇って来たのでもうそろそろ帰ろうかと思っている時，今度はチッ，チッ，ヂュリ，ヂュリンと聞きなれない声を耳にする。声が小さいが遠いのかなと思って見ると30m程先の藪の上に先程の鳥がいるではないか。今度こそはと胸をおどらせて望遠レンズを足と手で固定してピントを合す。いるいる。えーとあの鳥はと頭の中で過去の記憶を急いで繰る。そうだコジュリンだと解ると同時にパサッとシャッターが落ちる。続いて2枚。もう少し近寄ってと思ったら又何処かに飛び去ってしまった。

4月から5月にかけては鳥たちにとって大きな動きの時期だ。あるものは北へ帰り，あるものは南からやってくる。そんな春の野には時々予測もしなかった鳥が出現する。このコジュリンもまったく予想しなかった川原で出合ったのである。　(山博調査員)



博物館だより



3月27日皇居外苑よりコブハクチョウ一つがいが木崎湖に送られてきました。これは〃木崎湖に白鳥を浮べる会〃がお濠で飼育されているハクチョウを木崎湖に浮べ将来は木崎湖を〃白鳥の湖〃にしようというもので，その一段階としてコブハクチョウ一つがいがきたものです

3月25日〃土器を拾う会〃博物館友の会は大町市常磐区大崎に土器採集に行きたくさん土器を集めて来ました

3月28日より5月6日までのゴールデンウィークを中心にして〃春の特別展示会〃を国立科学博物館と共催で開きます。田中徳太郎氏の〃シラサギ〃全紙100枚 田淵行男氏の〃高山蝶〃全紙45枚　第4次南極越冬隊写真全紙80枚　以上を全館に展示し，ゴールデンウィークを家族づれで楽しんでいただこうというものです。

昭和37年度の予算と事業

昭和37年度，山岳博物館の予算は総額3,229,000円で昨年当初より383,000円の増。このうち人件費は1,897,000円で全体の58.7%を占める。残り1,332,000円（41.3%）が維持管理費と事業費である。管理関係では，電灯料，燃料費等のほかに，附属動物園の動物飼料費300,000円，木崎湖水禽園コブ白鳥飼料費35,000円，コブ白鳥飼育管理員賃金60,000円，モーターバイク購入費135,000円などが主なもの。事業費は月刊普及紙「山と博物館」の印刷費150,000円を除けば総額でわずか200,000円程度である。本年度は20万の事業費をもって最大の効果を上げるため，次のような計画が予定されている。

①春の特別展②東京出張展③日本刀鍔名品展④前縄文遺跡調査⑤北安・大町動植物分布調査⑥第六回「山の自然科学教室」⑦博物館野外教室（月二回平均実施）⑧市民集団登山など。このほか県よりの委託によるコマクサ生態研究，林野庁による野鳥標識調査への協力。

私は思う

昨年11月で創立10周年を迎えた山岳博物館が，その記念事業の一つに挙げた動物園移転が，またおかしくなってきた。37年度当初予算で当然盛って貰えると思っていた移転費がアッサリ見送られ「今度こそはー」と気負いこんでいた関係者を失望させた。現在神栄町にある動物園が自然の環境に恵まれた本館近くに移転して悪い筈がない。管理，運営の面でも大きなプラスになることは勿論である。しかも移転計画は，十二分に検討され研究されて青写真も出来上っているのである。直接の関係者は勿論，協議会でも練りつくし，議会，市理事者も半ば了解している懸案の事業であったように聞いている。私がこうした問題を，ここで取り上げる気になったのは，誰にも理解され，期待もされているこの種事業が，計画だけで，なし崩しに消えてゆくのではないかという心配があるからである。こと博物館に関してこのような心配が絶ずつきまとうのはどうしたことでろうか。針ノ木自然園も，雷鳥調査も関係者の熱意が理解されていない。否，理解しようとしないという方が当っているかも知れない。目的の本質，効果は大いに理観しているつもりーなどと巧いことを言っても，いざというときには逃げを打つ，カミシモを着せた約束は，やはり外交辞令にしか過ぎない。動物園移転問題もそうしたケースの中でモミクチャにされようとしている。外交辞令に乗ってしまったような気がしないでもない。それは学問に憧れとソネミと恐れを抱く者の誘惑にである。博物館の仕事は熱病やハヤリ病気であってはならない。過去10年の歴史は，いつも苦しい斗いであったそしてその斗いにも立派に耐えてきている。学問は個人のものではないし，その学問の中に新しい時代の芽が育ぐまれていることもやがては訳って貰えるだろう背負い投げを何回食ってもヘコタレてはいけない。掲げる理想は遠い。しかしその道を進まなくてはいけない。執念を持って事業の一つ一つを完成してほしいと思う。

（田中保平）

お願い　本紙の購読ご希望の方は1カ年購読料200円（郵送料とも）を現金書留または郵便為替，郵便切手で長野県大町市，大町山岳博物館あてご送金下さい。　大町山岳博物館

山と博物館　第7巻第4号　1962年4月25日発行
発行所　長野県大町市TEL（大町）211
大町山岳博物館
印刷所　大町市上仲町
信州印刷大町工場